常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅢ
令和　４年 11 月 18 日(金)
その４　通算 281 号

◇「修学旅行」にて

「修学旅行特集」の締め括りは、「６年生の持ち味」について。

校外の学習では、普段の学びがそのまま表れる。鍛えられた「よい面」ばかりではない。「課題」の部分も当然ながら表出するもの。優秀な６年生も然りだ。

けれども６年生の場合、「持ち味」まで高められた「よさ」が「課題を霞ませる」から不思議だ。

興福寺・東大寺巡り

ボランティアガイドさん

法隆寺

職員ガイドさん

【６年生の持ち味】は３つある。

❶【反応のよさ＝素直さ＋吸収力】
❷【場を読む力＝判断力＋行動力】
❸【切り替えの早さ＝けじめ力】

これが存分に表れた修学旅行であった。

特に「いいな」と感じたのは、現地で初めてかかわりをもつ「ガイドさん」への接し方である。時間をかけて醸成された「持ち味」が、関わりに表出された。

児童がガイドさんに接したのは、１日目の奈良学習。興福寺・東大寺巡りでは、現地のボランティアガイドさんにお世話になった。ボランティアガイドとは、「ボランティア」の枕が付くとおり、「地域や社会のために時間や労力、知識を提供するガイド活動」を指す。対価を求めるのではなく、貢献をねらいとしているから対応も献身的だ。このボランティアガイドさんに対する児童の関わり方が本当によかった。

ガイドさんが説明を始めると、児童は視線をさっとガイドさんに向け、話を聞く態度をとる。話の聞き方も真剣で、時折大きく頷いたり、「えーっ」「そうなんだ」などと気持ちを声に出して反応したりする。これがいつもの６年生なのだ。

６年生にとっては当たり前のいつもどおりの反応なのだが、ガイドにとっては新鮮だったようで、児童の反応がボランティアガイドさんの【ガイド心】をくすぐる。

加えて、児童が結構マニアチックな「的を射た質問」をするから、ガイドさんもここぞとばかりの回答を分かりやすく伝えようと気持ちも高まるものだ。ガイドさんの表情がどんどん柔らかくなっていくのも頷ける。

大サービスの大当たりガイドであった。そしてそれを導いたのは**児童の持ち味**。ボランティア終了後、ガイドさんの気持ちは、しばらく温かいままであったろう。

【場を読む力＝判断力＋行動力】は、学びの場面でも持ち味を発揮することになる。

平城宮跡の記念館で、児童が熱い眼差しを送るのは「木簡」資料。手紙の原型である。資料のほかにも出土品が多く展示されている。この木簡だけで300 点以上が国宝である。

『ここでしか学べない』とばかりに学習シートにメモを取りながら学びを進める姿は真剣そのもの。いい姿だった。

児童にとってはもちろんのこと、引率教師も、ボランティアガイドさんまで「記憶に残る修学旅行」であった。